

よく見つけ、共感する心を育てる道徳教育

- 地域素材の資料開発と授業での活用 -

塩田町立塩田小学校 教諭 水山 玲子

要 旨

児童が道徳の時間において自己理解や他者理解を深めることで、豊かな人間性をはぐくんでいけるように地域素材の資料開発を行い、それを有効に活用する授業づくりを考えた。また、日常生活において、豊かな心をはぐくんでいけるような指導過程の在り方も考えた。その結果、児童は資料に興味・関心を示し、道徳的価値について切実感をもって考え、理解し、これまでの自己、これからの自己の在り方を見つめたり、資料中の人物や友達の意見に共感したりするようになった。さらに、児童が授業中に学んだことを生かし、日常生活においても豊かな心をはぐくんでいる姿を見ることができた。

<キーワード> 自己理解 他者理解 地域素材

1 主題設定の理由

昨今の教育をめぐる危機的な状況に対応するためには、学校は、家庭、地域と連携して、社会性や規範意識をはじめとする心の教育を充実させ、豊かな人間性を育成することが大切である。

本主題の「よく見つけ」とは、自分自身をよく見つめる、すなわち自己理解である。自分の中にあるよさを自覚し、自分を肯定的に見つけ、自分の成長を実感していくことは、未来に夢や希望をもって生きていくために欠かすことのできない営みである。また、「共感する心」とは、資料中の人物や友達の心情、行為など他者に自分と同じ部分を感じたり、自分と異なる考えに気づき、受け入れたりすることまで広げた他者理解である。自己理解や他者理解は、豊かな人間性をはぐくんでいくための重要な要素でもある。

これまで、地域素材を資料として使った授業は推進されてきた。しかし、地域素材の資料開発においては、資料開発のポイントやその有効な活用法など明らかになっていないことも多い。本研究においては、それらの点を明らかにし、地域素材を資料化する。それを授業で有効に活用すれば、児童は自己理解や他者理解を深めながら豊かな人間性をはぐくんでいけると考え、本主題を設定した。

2 研究の目標

地域素材の資料開発のポイントと授業での有効な活用法を明らかにし、児童の心に響く道徳教育の在り方を探る。

3 研究の仮説

道徳の授業づくりにおいて、次のような手立てをとれば、よく見つけ、共感する児童を育てることができるであろう。

児童にとって身近で、自分の問題としてとらえることのできる地域素材の資料開発。
開発した地域素材を使った資料を生かした道徳の時間の工夫。

4 研究の内容と方法

地域素材の資料開発の理論及びそれを有効に活用した授業づくりの研究。

地域素材の収集・整理と地域素材の資料開発。

検証授業の実施（5年生・3単元）と児童の変容を基にした研究の仮説の検証。

5 研究の実際 1 (実践化への手立て)

(1) 地域素材の資料開発のポイント

本研究における「地域」とは、主に児童が一番身近に感じる校区内のことである。地域素材の資料開発の手順としては「魅力的な素材の収集」「地域素材と内容項目との関連性の明確化」「表現形式を考慮した資料化」が考えられる。

ア 魅力的な地域素材の収集

日頃から表1に示すような収集先に関心をもっておくことに加え、特に公共施設については、関係者に道徳で使える素材を探していることを伝えておくことで後で情報をもたらされる場合もある。

表1 地域素材の集め方

収集先	地域素材の基になるものの例
図書館・史料館	町関係の新聞スクラップ、本、ビデオ
町役場	町の広報誌、ホームページ、パンフレット
イベント	祭り、町おこし関係
学校	学校便り、校長講話、授業、記念誌、作文
その他	歩いて目に付くもの、人との会話等

イ 地域素材と内容項目との関連性の明確化

表2から分かるように、一つの地域素材の中に複数の内容項目が含まれる場合もある。例えば、礼儀・思いやり・愛校心にはいずれも「中学生のあいさつ」が含まれている。そこで、「中学生のあいさつ」の中の着眼点を明記しておくことにより、収集した地域素材が授業づくりに生かしやすくなる。

表2 地域素材と内容項目との関連性(例 高学年)

内容項目	使えそうな素材の例(着眼点)	内容項目	使えそうな素材の例(着眼点)
不撓不屈	職人、郷土芸能	自然愛	地域の山、川
誠実明朗	昔話	生命尊重	お寺の住職さんの話(命に関わる話)
個性尊重	語り部の生き方	勤労奉仕	ボランティア関係
礼儀	中学生のあいさつ(あいさつの日常化)	愛校心	中学生のあいさつ(学校の伝統)
思いやり	中学生のあいさつ(あいさつをする心)	郷土愛	郷土史、郷土芸能、伝統工芸、町の行事、地域の自然
感謝	授業で関わった地域の人、給食センター	国際理解	A L Tとの交流

ウ 表現形式を考慮した資料化

表3にある表現形式の特徴を考慮して資料化する。実際に授業づくりをする中で、ねらいに迫るための有効な表現形式が決まってくるので、資料化と授業づくりは並行しながら進めていった方がよい。

表3 表現形式の特徴と資料化のポイントの例 C...児童, T...教師

形式	メリット	デメリット	資料化のポイント
読み物	C: 繰り返し読む事ができる T: 範読する時に感情をこめたり速度を変えたりすることができる	C: 読解力の違いにより内容把握に違いが生じることがある T: 資料の背景に関する説明が必要な場合がある	・その資料に関連する地域の写真なども効果的に使う ・短めで分かりやすい文にする
ビデオ	C: 具体性がある分分かりやすい T: 臨場感があり興味を高めやすい	C: 場面を見逃す場合もある T: 時間的に長すぎるものが多い	・編集をする際、児童が知っている人や場所などを入れる ・ねらいに合わせて中心場面を絞る
写真	C: 直感的、感覚的にとらえられる T: 事実を伝えられる	C: 小さくて見にくいことがある T: 焦点化しにくい	・写真にまつわるエピソードを取材しておく ・ねらいに必要な部分を考える

(2) 地域素材を生かした道徳の時間の工夫

ア 資料提示の工夫

資料は、表4のような提示の工夫をすることで、児童の興味・関心を更に高めることが可能である。資料の特性とそれぞれの提示方法のメリットを考えながら提示の方法を工夫することが大切である。

表4 資料提示の工夫例

資料提示方法	具体例	メリット	表現形式の例
部分提示	児童に気付かせたい箇所をわざと隠して提示する。	児童の関心が隠した部分に集中し、教師が意図した所に気付かせることができる。	写真・絵 読み物資料
拡大提示	プロジェクターを使用して、スクリーンに映し出す。	臨場感が高まり、児童を資料に集中させることができる。細部まで見せることができる。	ビデオ 写真・絵
直接提示	実物を持参して見せる。児童の目の前で直接話してもらう。	児童の興味を引き付けられる。本人が話すと説得力がある。	実物 作文・説話
プレゼンテーション	絵本などをスキャナーで取り込んで、パソコンを通して提示する。	効果を取り入れることで、児童の記憶に鮮明に残すことができる。	絵本 写真・紙芝居

イ 発問の工夫

地域素材を使った資料の魅力の最たるものは、児童に身近であるということである。表5に示すような発問の工夫をすることで、更に児童の自己理解、他者理解を深めることができる。

表5 発問の工夫

発問の種類	発問の内容	発問の役割
比較	他者と自分とを比較する発問	比較をすることで今の自分を見つめることができる
ゆさぶり	児童の考えをゆさぶる発問	児童の考えを深めることができる
関連	児童の生活や体験とつなげる発問	児童の内面に届き、他者理解や自己理解ができる

ウ 指導過程の工夫

地域素材を使った資料のよさは、児童が資料内容について直接見聞きできる点である。資料の内容によっては、児童に調べ学習をさせた方がねらいを達成するためにより効果的な場合も考えられる。そのような時は一つの資料を複数時間扱いにし、1時目と2時目の期日を空けておく方法がある。地域素材の内容は、児童の家族や地域の人も知っていることが多いので、授業外でも共通の話題に十分なり得る。また、1時目で児童がもった感想を2時目の導入で使うこともできる。

(3) 検証の視点

検証番号	検証の視点	検証内容
	資料への興味・関心の高まり	児童の学習に対する興味・関心を喚起し、ねらいとする道徳的価値に気付くきっかけとなり、心に残る資料であったかを検証する
	発問の工夫や指導過程の工夫における道徳的価値の理解の深まり	地域素材を生かした発問の工夫をしたり、指導過程の工夫をしたりすることにより自己とのかかわりにおいてねらいとする価値を深くとらえられたかどうかを検証する

6 研究の実際2（授業を通じた実践的研究）

(1) 授業の実際（第5学年・全5時間）

単元	授業時	主題名	内容項目	地域素材	資料	資料化の工夫
	第1時	すてきなあいさつ	礼儀	S中生徒のあいさつ	音声 ビデオ 作文	普段の生活場面でのあいさつの音声を録音し導入に使う 本校卒業生の出てくる場面を中心に編集する 映像ではとらえにくいあいさつ時の心情を中学生に書いてもらう
	第2時	支えられている自分	感謝	給食センターで働く人	ビデオ 説話	児童が感謝を感じる場面を中心に編集する（表6参照） 映像では分からない給食を作る時の心情を中心に話す
	第3時			給食の食材に携わる人	児童の話	牛の飼育、食肉加工など目には見えない努力を中心に話をさせる
				学級担任	説話	児童が想起しやすいように、担任が小学生の時に感じた感謝の対象を話す
	第4時	塩田に生きる	郷土愛	S37年塩田川の水害にかかわるもの	作文 写真	当時小5の児童作文をねらいに迫る部分に絞って編集する プロジェクターを使用し拡大提示をする
	第5時			S37年塩田川の水害 塩田川の歴史	児童の話 G Tの話	前時でよく分からなかった点を家庭で調べるようにし、それを本時の導入で使い、前時とのつながりをもたせる 次の学習活動につながる視点で話をしよう

(2) 資料開発の実際（第2時「支えられている自分」ビデオ資料の作成に至るまで）

右記のビデオを活用したのは次の理由からである。

表6 ビデオ資料の開発手順

給食を作る場面だけでなく、準備や後始末の場面まで撮影されている。

町内の児童向けに作成されている。

道徳的価値を感じる場面が随所に見られる。

表6は第2時におけるビデオ資料の開発手順を示したものである。ビデオを編集する際には、予定の時間内に収まるように、児童が仕事の大変さに心動かされ、感謝の念を抱きそうところを中心に選んでいくようにした。

以前町の給食センターから学校に配布されていた「給食センターの1日」のビデオ（45分）を活用
編集しやすいようにVHSをデジタル化する
時間が長すぎるので、動画編集ソフトを使い、見せたい部分に絞って編集する（10分程度）
編集後、再び動画編集ソフトを使い、小さな場面ごとにタイトルを挿入する

(3) 授業の実際と考察

ア 資料提示の工夫 第4時「塩田に生きる」

水害にあった町の写真を見せる際、その恐ろしさを児童に感じ取らせるために次の点を工夫した。

- ・ 拡大提示 臨場感をもたせるために、プロジェクターを使用した。
- ・ 部分提示 最初に、道に水があふれている所のみ見せ（写真1）
児童が「川の写真だ」とつぶやいたところで、隠していた部分には実は家が並んでいるという事実（写真2）を知らせた。児童は、道が川のようになる程水があふれていたことに驚いていた。
- ・ 提示順の工夫 水害にあった町中心部の写真
道が川のようにになっている写真（写真1, 2）
水害でトラックが横転し、家が崩れ人々が呆然と立ちつくす写真（写真3）



写真1 部分提示



写真2 全体提示



写真3 トラック横転

いずれも、児童が知っている場所の写真で、インパクトがだんだん大きくなる順番を考えた。表7のように、児童は資料提示時に写真から分かることは何かを考えたり、自分の家族や友達のことを心配したりしていた。提示の工夫により、児童の資料への興味・関心は高まったものと言える。

また、本時では水害当時小5の女兒作文も資料として使用した。これは、当時の町の広報誌に掲載されていたもので、児童と同じ学年だったこともあり、児童はかなり興味を示した。さらに、資料提示の工夫として、作文中の女兒の心情に迫らせるために、水害の写真を拡大提示しながら作文を読んで聞かせた。

授業後のアンケートで「今日の道徳の時間で心に残っているところ」を聞くと19名中13名が写真や作文など資料に関する記述をしている。残り6名も水害が起きた後、人々が復興に向けて努力していたことを記述している。資料1はその時の感想の一部である。

また、授業後、塩田の水害のことが気になって、休日を利用して町の図書館に調べに行った児童もいた。資料2の日記を読むと、資料に対する関心の高さとともに、水害の写真を図書館で見せてもらうことで、改めて水害の恐ろしさを感じたことが分かる。調べようと思った時にすぐ行動に移せることも、地域素材ならではのメリットである。以上のことから考えて、地域素材の資料化、提示の工夫は、児童の興味・関心を喚起し、ねらいとする道徳的価値に気付き、更にそれを深める手立てになると言える。

表7 資料提示時のつぶやき

写真の内容	児童のつぶやき
町中心部	「洪水」「塩田」「塩田の洪水だ」「今の町浦」「れんがの流れとつよ」「ばあちゃんから水害の話聞いたことある」
道が川のように	「川」「何か家のある」「『たばこ』って書いてある」「えー、道？」「すげー」「Mちゃんちの近くだ」「Mちゃんちも大変やたらう」
トラックの横転	「被害のあった後だ」「水のひいた後」「車だ」「おいんちも浸水しとったかもしれん」「あれがM米屋？」

資料1 児童のアンケートより

- ・ 塩田で水害があったことは、ちょっとは知っていました。でもその場の状況とかどんな風だったのかは知りませんでした。写真とか作文を見たり聞いたりしたことで、ものすごかったことを知りました。それに町のおかげで今があるので、町の人々の努力のおかげだと思いました。
- ・ 今、ぼくたちにある、とっても平和な暮らしは復旧作業をしてくれた人たちのおかげです。ありがとうございました。ぼくたちも誰かのために一生懸命協力してやりたいなあとと思いました。

資料2 児童の日記より

今日、T君と一緒に町分のところを歩いていたら、ぼくたちは「水害の印ってどこかなあ」と疑問に思いました。そこで図書館に行ってみることにしました。ちょうど水山先生の車があったので、T君が「水山先生に聞くよかっちゃんか」と言ったので水山先生と話しました。そして、図書館の人に水害の写真を貸してもらって見ました。それで、ぼくの家の近くの銀行が写っていたので、ぼくはT君と「ここんたいだ」など言っていました。それにしてもすごかったです。昔の役場の屋根まで水が来ていて、古い屋根が流されている写真がたくさんありました。結局水害の印は分らなかったけど、写真を見ただけでうれしかったです。その後、水山先生にほめられました。

水害の印は町分のどこにあるかは分からないけど、まだあきらめずに見つけています。あきらめていません。見付け出してしまんたいです。

イ 発問の工夫 第5時「塩田に生きる」

前時の主なねらいが「塩田川の洪水の事例を通して、それにもめげずに町のことを思って働いてくれていた人々への感謝の心を育てる」だったので、児童は塩田川に対してマイナスイメージをもっていた。そこで、本時のねらいの一つを「塩田川の利点を考えさせることにより、塩田川に愛着をもたせる」とした。その際、本時のねらいに迫るためにも塩田川に対してプラスイメージを児童にもたせるきっかけとなる発問が必要だった。そこで、児童の心情をゆさぶる発問の工夫をし、塩田川のよさに対して深く考えさせていくようにした。表8は発問の工夫における児童の発言の一部である。

表8 発問の工夫における児童の発言

発問の種類	T 主な発問	C 児童の主な発言
ゆさぶり	水害ばかり起きる塩田川は、塩田の人にとって迷惑な存在だったのでしょうか	<p>C1 どうやったろうか。</p> <p>C2 <u>和泉式部公園に「ふるさとの川 塩田川」って書いてありました。</u></p> <p>C3 <u>昔はプールがなかったから、川で泳いでいたらしい。</u></p> <p>C4 <u>たまにライギョとかも捕まえていたって友達のお父さんから話を聞いたことがあります。</u></p> <p>C5 <u>一昨年の6年生の「よみがえれ塩田ん町」という劇で塩田川に船が来ていた場面がありました。</u></p>

児童は、この発問の前まで水害の苦勞話に共感していたので、発問をした直後はC1の発言からも分かるようにしばらく考え込んでいた。そして、C2が「ふるさとの川」と書いてあったことを想起し発言したのをきっかけに「ふるさとの川」をキーワードに塩田川の利点を考えていった。すると、かつて聞いた話や友達の父親から聞いた話まで想起できた児童もいた。このことから塩田川という地域素材は、町民にとっていかに身近な存在で親しみがあるかが分かる。ゆさぶりの発問をすることで、児童が塩田川を単なる川という存在でなく、町民にとっての価値を見いだすきっかけになったと考える。

資料3 児童のワークシートより

・塩田川は、水害のようなひどいことばかりではなく、昔の塩田の人のように川で遊んだり魚をとったりと、とても楽しいこともしていた。田んぼなどの水、洗濯、やかん洗い...と塩田川は塩田の人にとって大切な川だった。塩田の大切な川、塩田の人にとっては生まれながら、なじみのあるふるさとの川だったと考えました。

・塩田川は、塩田の人にとってなくてはならないものだなあと思いました。1日の生活にも必要な塩田川は、水害が起こってもまた元のように戻ってよかったなあと思います。塩田川は塩田の人にとって、とても大切な物。そして、塩田の自慢の川だと思います。だから水害のことも忘れないようにしたいです。

単元を通しての発問構成の工夫としては、塩田川のマイナス面の後にプラス面を考えさせるようにしたことである。具体的には、児童は前時で塩田川のマイナス面、すなわち洪水を起こしては人々が苦しめられてきたことを十分実感していた。その後、塩田川の利点を考えたことで、児童にとって塩田川に対する愛着が深まっていったと考える。この授業で、塩田川と塩田の人とのかわりを書かせたワークシートの抜粋が資料3である。授業を通して、児童はこれまで深くは考えていなかった塩田川に対する昔の人の思いを感じている。つまり、これは他者理解の表れであり、同時にふるさと塩田に対する自分の思いをはぐむという自己理解の表れでもある。また、塩田川を価値ある存在としてとらえていることも分かる。

発問の工夫によって、自己理解、他者理解が深まり、道徳的価値の理解を深めることができたと考える。

ウ 指導過程の工夫 第5時「塩田に生きる」

単元では、第4時の授業後に児童は「塩田川の水害の後始末にかかわること」を調べてきた。資料4は、水害の後始末の話聞いた児童の感想である。児童が家族に話を聞くことにより、授業で学んだ塩田の人が助け合ってきたことへの思いを再認識していることが分かる。また、ある児童は自主的に家から水害時の写真(パネル)を持ってきた。写真4はその写真を使った発表の様子である。クラス中、その写真にくぎづけになって話を聞き、中には帰宅後そのことを家族に話した児童もいた。一つの単元において授業と授業の間を生かし、児童が資料に関して調べてきたことは、授業以外でも家族や地域の人という他者とかかわりを持ち、道徳的価値を考えていくことができた。

資料4 児童の感想より

「水害の後始末の話聞いて」
 やっぱり人と人の助け合いって、必要なあとと思った。あと、水害がきてもくじけないってすごいなあ。それと、驚くべき復旧作業の速さすごい。



写真4 写真持参の児童の発表

(4) 授業を通しての全体的な考察

表9 単元 前後の児童の変容

ア 学級全体の変容

表9に一例を示しているが、授業前には道徳的価値を表面的にしかとらえていなかったのに、地域素材の資料を授業で有効活用したことで、授業後には価値をより深くとらえていることが分かる。授業を通して、児童の自己理解、他者理解は深まり、ねらいとする道徳的価値に迫ることができた。

塩田について思うこと		
	事前アンケート	授業後アンケート
自分の思い	・自分が1番落ち着ける場所・自然がいっぱいあるのでいい所にいる ・都会とちがう所をずっと残したい ・もっと買い物するところを作ってほしい	・とってもしい町で暮らしているな ・これからもっといい町にしよう ・塩田に生きていてよかった ・やっぱり自分たちの町だからすごくいい ・塩田のよさを大切に残していこう
町の人の思い	・人がやさしい所 ・いい人がたくさんいていい町	・今塩田に住んでいられるのは、昔の人の努力のおかげ・塩田の人はいい人ばかり ・塩田の人はみんなで助け合いをしてがんばった ・塩田の人はいろいろなものを続けてきた ・今の塩田は昔の人に恵まれた大切なもの ・水害があっても、昔の人はがんばった ・私たちまで塩田のよさが伝えられてきた
町のよさ	・災害や犯罪がなくていい町 ・食べ物もおいしいし、いい町 ・自然がいっぱい ・祭りなどの行事があつていい町	・昔から塩田川があり、唐泉山もあり、伝統などがあつていい町 ・塩田っていいなあ ・塩田にある一つ一つの物や人や勉強した川のこととかが塩田をいかしているんだなあ

20名 自由記述式 複数回答あり 数字は人数

イ 個人の変容

今回の研究ではA児を中心にその変容を見てきた。A児は、気は優しいが、自分のよさに目が向けられず、投げやりな態度になりがちである。また、他者に対しても、そのよさに気付けないことが多い。授業を通して、A児が素直にこれまでの自分やこれからの自分を見つめたり、他者に思いを寄せたりする姿が見られた。表10は、5時間を通したA児の変容の様子である。

表10 A児の変容の様子

授業時	事前アンケート	授業中の発言、つぶやき、ワークシート、事後アンケート
第1時	こんなあいさつができるようになりたい 「特にない」	こんなあいさつができるようになりたい 「相手に失礼のないようなあいさつをしたい」(ワークシート)
第2時	日頃どんな人にお世話になっているか 「全然思わない」	「給食センターの1日」のビデオ視聴後 「今の時間やったら給食を作ってる頃よねえ...」(つぶやき)
第3時	感謝について思っていること 「ないない」	2時間使って「感謝」の学習をして思うこと (ワークシート) 「ぼくはもうちょっとありがたいと思わなければならないと思う」
第4時	「塩田」について思っていること 「もっと買い物するところを作って」	授業の終わりの感想を書きながら 「初めは水害で死んだ人がたった6人かと思っていたけど、それは死んだ人に失礼かよね、先生」(つぶやき)
第5時		塩田川と塩田の人について 「ぼくは、塩田川は塩田の人にとって神様の存在だと思っています。田んぼに水をやったり...(中略)かなり活躍していた。だから、塩田川の水害があつても、にくんだりしてない」(ワークシート)

7 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

ア 児童にとって身近な地域素材を使った資料は、児童の興味・関心を喚起させることができ、ねらいとする道徳的価値に気付かせることができた。

イ 地域素材を使った資料を生かした道徳の時間の工夫をすることで、児童に自分の問題として道徳的価値をとらえさせることができた。また、道徳的価値に対し、自分はどうかを見つめさせたり、資料中の登場人物などの心情や姿に共感させたりするのに有効であった。

(2) 今後の課題

地域素材の資料開発は壮大なスケールで考えがちだが、例えば校区内の中学生の姿など、ごく身近なところに道徳的価値を感じる素材は意外とある。また、資料化されずに眠っている素材もある。地域素材の資料開発を通して、児童が豊かな心をはぐくんでいける授業づくりを今後も目指していきたい。

《参考文献》

- ・ 押谷 由夫編集 『豊かな人間性・社会性の育成』 平成10年 教育開発研究所
- ・ 上杉 賢士編著 『小学校新道徳授業の基本用語辞典』 2000年 明治図書